

令和元年度

主要な施策の成果に関する説明書

鳥栖・三養基西部環境施設組合

令和元年度主要な施策の成果に関する説明書

地方自治法（昭和 22 年法律第 67 号）第 233 条第 5 項の規定に基づく令和元年度決算に係る主要な施策とその成果について次のとおり報告する。

令和 2 年 8 月 25 日

鳥栖・三養基西部環境施設組合
管理者 末 安 伸 之

目 次

1 決算の概要

(1) 総括	1
(2) 収支の状況	1
(3) 歳入の状況	1
(4) 歳出の状況	2

2 主要事業の成果

(1) ごみ処理	3
(2) 環境情報	6
(3) 啓発事業	7

1 決算の概要

(1) 総括

歳入は、収入額 14 億 3,413 万 9 千円で、前年度から 4 億 2,316 万 3 千円 (22.8%) 減となり、歳出も、支出額 13 億 9,688 万 2 千円で、前年度から 4 億 3,129 万円 (23.6%) 減となった。

歳入では、飛灰補償金の減少と有価物の売渡単価の下落による売払収入の減少が見られ、歳出では、みやき町への所在地交付金の交付が前年度で終了し、次に溶融飛灰の発生量の減に伴う飛灰処理費の減少、さらにリサイクルプラザプラント基幹補修の終了に伴う修繕料の減少が見られた。加えて、既存施設の建設事業債の償還が前年度で完了し、歳出額総額が減少した。

(2) 収支の状況

歳入総額 14 億 3,413 万 9 千円から、歳出総額 13 億 9,688 万 2 千円を差し引いた歳入歳出差引額は 3,725 万 7 千円となり、実質収支額も同額となっている。

今年度実質収支額から前年度実質収支額 2,913 万円 (前年度決算剰余金) を差し引いた単年度収支は、812 万 7 千円となった。

・歳入歳出収支状況

(単位:千円)

	歳入総額	歳出総額	差引額	翌年度へ繰り越すべき財源	実質収支
令和元年度	1,434,139	1,396,882	37,257	0	37,257
平成 30 年度	1,857,302	1,828,172	29,130	0	29,130
増減	▲423,163	▲431,290	8,127	0	8,127

(3) 歳入の状況

(単位:千円)

区 分	令和元年度		平成 30 年度		増減 (A)-(B) (C)	対前年度 増減率(%) (C)/(B)
	決算額 (A)	構成比	決算額 (B)	構成比		
分担金及び負担金	1,153,674	80.4%	1,524,567	82.1%	▲370,893	▲24.3%
使用料及び手数料	164,986	11.5%	165,103	8.9%	▲117	0.0%
財産収入	307	0.0%	279	0.0%	28	▲10.0%
繰入金	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
繰越金	29,130	2.1%	69,736	3.8%	▲40,606	▲58.2%
諸収入	86,042	6.0%	97,617	5.2%	▲11,575	▲11.9%
歳入合計	1,434,139	100.0%	1,857,302	100.0%	▲423,163	▲22.8%

・構成市町別負担金一覧

(単位：千円)

区 分		公債費	所在地交付金	解体準備費	管理運営費	計
鳥栖市	令和元年度	0	0	45,072	723,554	768,626
	平成30年度	257,843	14,281	0	706,269	978,393
	増減	▲257,843	▲14,281	45,072	17,285	▲209,767
上峰町	令和元年度	0	0	7,775	118,421	126,196
	平成30年度	44,441	1,611	0	117,015	163,067
	増減	▲44,441	▲1,611	7,775	1,406	▲36,871
みやき町	令和元年度	0	0	17,153	241,699	258,852
	平成30年度	142,179	4,108	0	236,820	383,107
	増減	▲142,179	▲4,108	17,153	4,879	▲124,255
合計	令和元年度	0	0	70,000	1,083,674	1,153,674
	平成30年度	444,463	20,000	0	1,060,104	1,524,567
	増減	▲444,463	▲20,000	70,000	23,570	▲370,893

・ごみ処理手数料

(単位：千円)

	鳥栖市	上峰町	みやき町	計
令和元年度	126,516	10,115	28,320	164,951
平成30年度	125,736	11,046	28,276	165,058
増減	780	▲931	44	▲107

・資源化物の売払い額

(単位：千円)

	金属類	古紙類	プラス チック類	スラグ メタル	びん類	その他	合 計
令和元年度	21,139	8,780	72	2,164	387	1,289	33,831
平成30年度	26,600	15,924	1,890	1,912	418	985	47,729
増減	▲5,461	▲7,144	▲1,818	252	▲31	304	▲13,898

(4) 歳出の状況

(単位：千円)

区 分	令和元年度		平成30年度		増減 (A)-(B) (C)	対前年度 増減率(%) (C)/(B)
	決算額 (A)	構成比	算額 (B)	構成比		
議会費	282	0.0%	283	0.0%	▲1	▲0.4%
総務費	159,580	11.4%	130,073	7.1%	29,507	22.7%
衛生費	1,237,020	88.6%	1,253,354	68.6%	▲16,334	▲1.3%
公債費	0	0.0%	444,462	24.3%	▲444,462	▲100.0%
予備費	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
歳出合計	1,396,882	100.0%	1,828,172	100.0%	▲431,290	▲23.6%

2 主要事業の成果

(1) ごみ処理

令和元年度の搬入ごみ量は、総計 3 万 5,040 トンで、前年度比較 591 トン (1.7%) の増加となった。種類別にみると、可燃ごみは 599 トン (2.1%) の増加、粗大・不燃ごみも 25 トン (0.6%) の増加、資源ごみは 32 トン (1.8%) の減少となり市町の割合は、鳥栖市 71%、上峰町 8%、みやき町 21% となり、ごみ搬入量を 1 人 1 日当たりの量に換算すれば、鳥栖市が 923 グラム、上峰町が 775 グラム、みやき町が 761 グラムとなった。

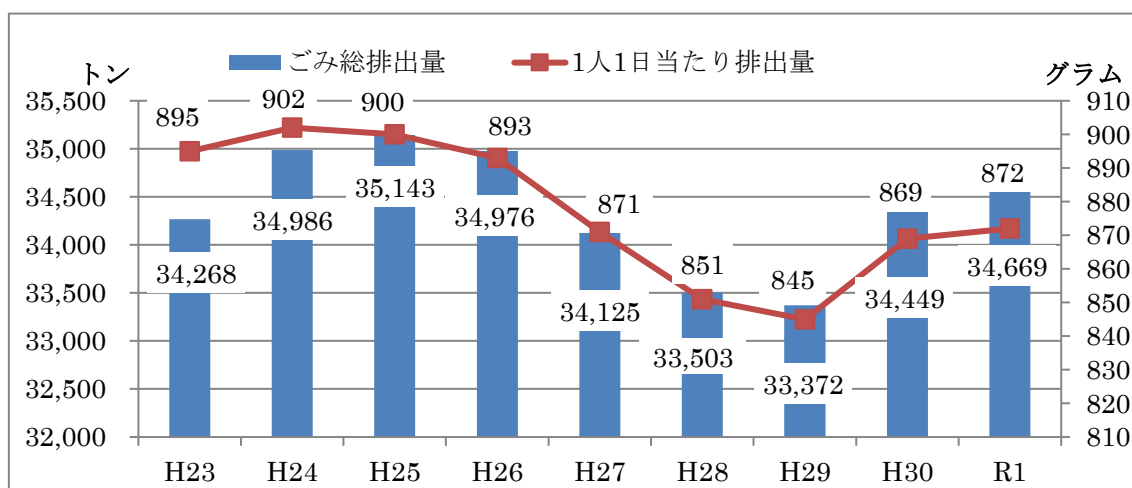
また、昨年 8 月末に発生した佐賀県豪雨災害に伴う災害ごみ 371 トンを災害応援協定に基づき大町町及び武雄市から受け入れた。

・ごみ搬入量

(単位：トン、人)

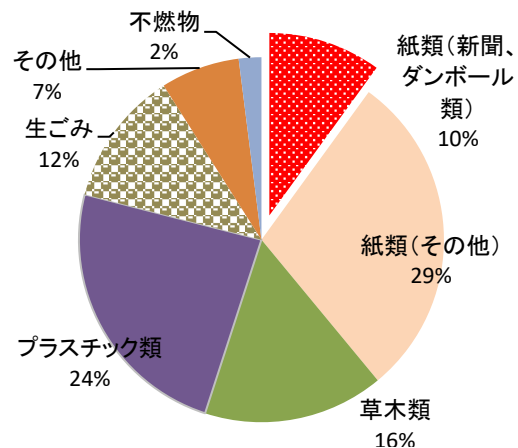
		可燃ごみ	粗大不燃ごみ	資源ごみ	計	人口 (10.1)
鳥 栖 市	令和元年度	21,235.82	2,358.56	1,228.18	24,822.56	73,683
	平成 30 年度	21,036.63	2,325.65	1,232.27	24,594.55	73,422
	増減	199.19	32.91	▲4.09	228.01	261
上 峰 町	令和元年度	2,049.26	483.53	177.16	2,709.95	9,575
	平成 30 年度	2,079.12	481.19	184.02	2,744.33	9,577
	増減	▲29.86	2.34	▲6.86	▲34.38	▲2
みやき町	令和元年度	5,434.30	1,313.63	388.51	7,136.44	25,706
	平成 30 年度	5,375.69	1,324.32	409.82	7,109.83	25,562
	増減	58.61	▲10.69	▲21.31	26.61	144
災害ごみ	令和元年度	371.22	(大町町 272、武雄市 99)		371.22	
合計	令和元年度	29,090.60	4,155.72	1,793.85	35,040.17	108,964
	平成 30 年度	28,491.44	4,131.16	1,826.11	34,448.71	108,561
	増減	599.16	24.56	▲32.26	591.46	403

・ごみ搬入量の推移 (災害ごみ除く)



・可燃ごみの分類

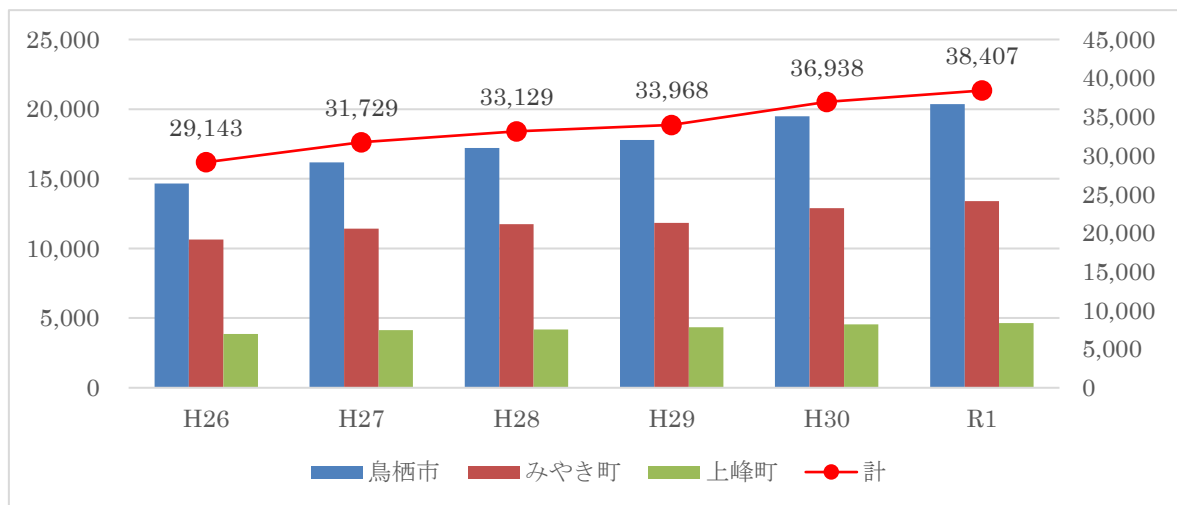
可燃ごみを分類すると、紙類が39%、プラスチック類24%、生ごみ12%、草木類16%であった。また、紙類のうち、資源化回収の対象となっている新聞、ダンボール類が10%含まれ、重量にすると2,900トン程度となる。



焼却処分の中になんかの資源ごみが潜在していることから、更なる資源化分別を進める余地がある。

生ごみも、前年度からは若干減少しているが、依然として可燃ごみ中の水分は37%を占めている。食品ロスの問題もあり、引き続き「使い切り」、「食べ切り」、「水切り」を推進していく必要がある。

・リサイクルプラザ直接搬入台数の推移（単位：台）



令和元年度は、年間38,407台（前年比1,469台増）、1日あたり126台の搬入があり増加傾向にある。特に年末12月27日、28日、30日の3日間は、延べ915台の搬入があった。混雑する土日や年末時における搬入者のごみ降ろし場所の確保が課題となっている。

・ごみ処理の状況

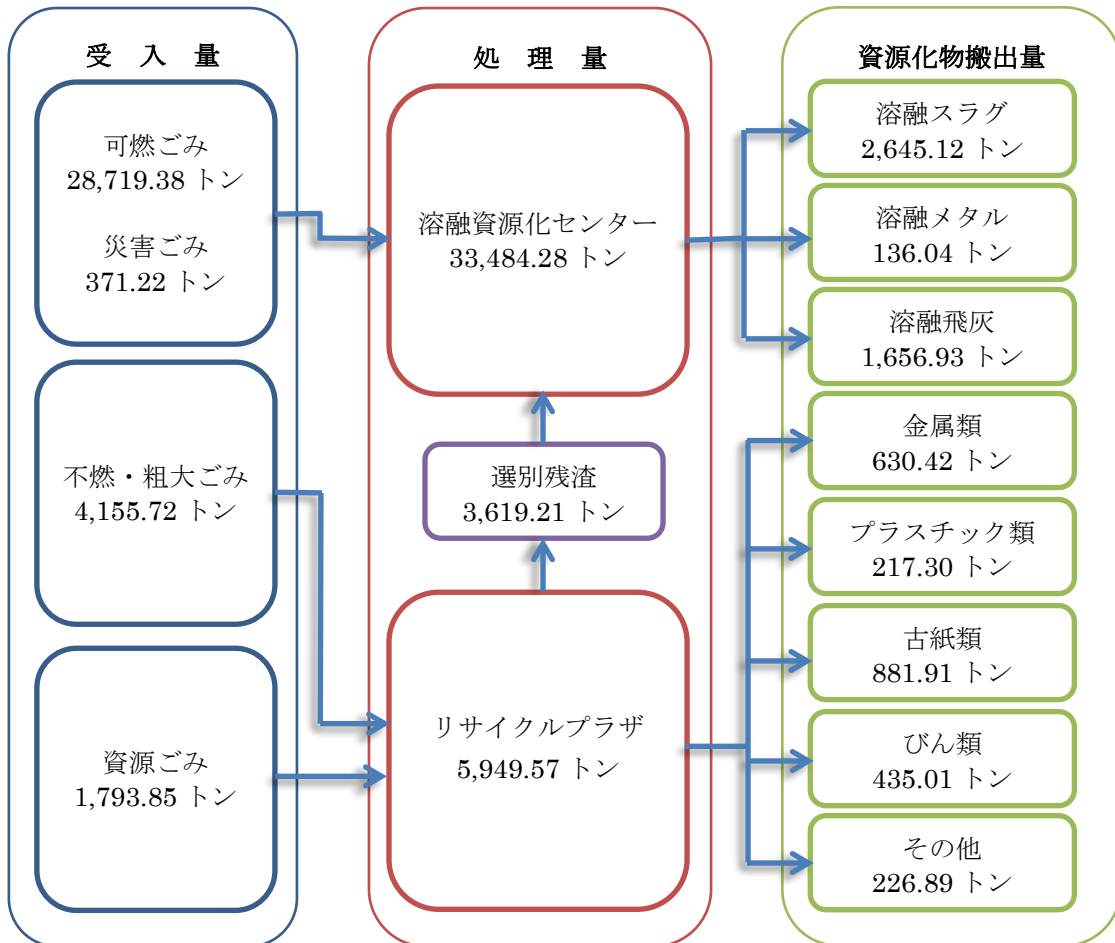
可燃ごみの処理（溶融資源化センター）

33,484 トンを溶融施設で溶融処理し、溶融スラグ 2,645 トン（8%）、溶融メタル 136 トン（0.4%）を資源化した。溶融飛灰 1,657 トン（4.95%）は山元還元やセメント化、および埋立による処理を行った。

不燃・粗大ごみ、資源ごみの処理（リサイクルプラザ）

不燃・粗大ごみ 4,156 トン、資源ごみ 1,794 トンを選別処理し 2,392 トン（40%）を資源化物として搬出した。

・ごみ処理フロー



(2) 環境情報

・排ガス測定結果

区 分	測定日		排出基準 (協定値)
	R1. 6. 13	R1. 12. 10	
ばいじん (g/m ³ N)	0.004	0.001	0.01
硫黄酸化物(ppm)	35	18	50
窒素酸化物(ppm)	18	22	100
塩化水素(ppm)	2.7	1.1	50
一酸化炭素(ppm)	5	7	30
ダイオキシン類(ng-TEQ/m ³)	0.0	0.00032	0.1
総水銀 (μg/m ³)	10	12	50

・周辺環境ダイオキシン類調査結果

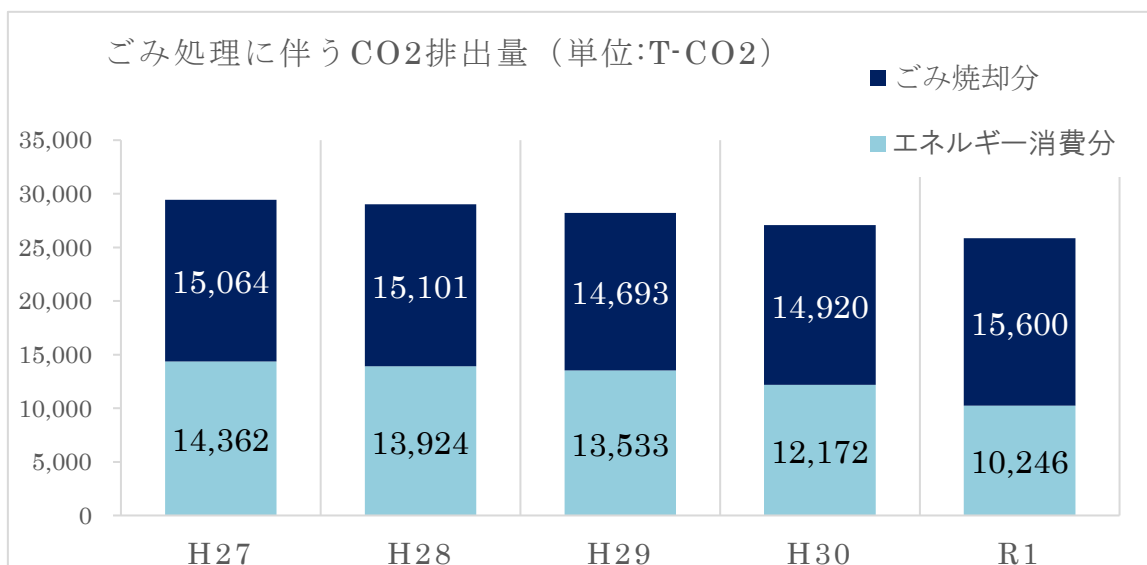
区 分	測定結果	基準値	測定日
大気 (p g-TEQ/m ³)	0.0096、0.0064	0.6	R2. 1. 8~14
底質土壌 (p g-TEQ/g)	32	150	R1. 10. 17
一般土壌 (p g-TEQ/g)	4.0	1,000	R1. 7. 31
水質 (p g-TEQ/l)	0.22	1	R1. 10. 17

・温暖化対策

ごみ処理に伴う二酸化炭素の排出量は、年間 25,846 トン-CO₂ であった。

施設内の消費電力削減に努めた結果、年間の二酸化炭素発生量は 1,246 t-CO₂ 減少した。

引き続き消費エネルギーの削減とごみ減量化に取り組む必要がある。



(3) 啓発事業

・リサイクルプラザ利用状況（年間延べ利用者数）

視察研修	イベント参加	研修室借用	宿泊研修	エコライフ講座
1,528名	1,250名	429名	199名	69名

施設見学を通して環境学習に小学生1,124名が参加した。環境学習では、施設の紹介と合わせて、Reduce（リデュース）、Reuse（リユース）、Recycle（リサイクル）の3つのRでゴミ減量化やリサイクル推進への啓発活動を行った。

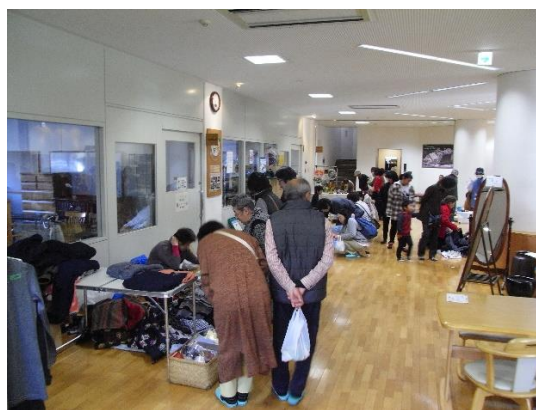
環境イベントとして、毎月第3日曜日に「エコライフ講座」、同時に再生家具や再生自転車の展示販売を行う「もったいなか市」、一般公募による不用品バザーの「エコマーケット」を開催した。

また環境美化活動として実施した、風の広場のひまわり花壇や、菊づくり教室の菊花展には多くの来場者があった。

○エコライフ講座



○エコマーケット



○もったいなか市



○周辺環境美化活動（菊花展）

